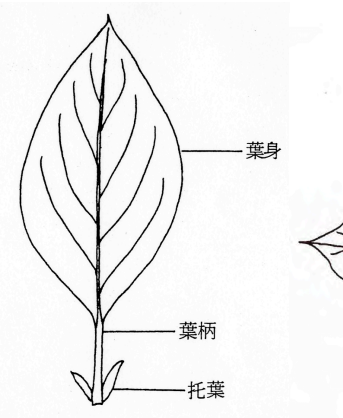
薬草教室だより　平成 29 年 6 月 20 日発行　第 3 号
東京都薬用植物園　〒187-0033 東京都小平市中島町 21-1　℡042(341)0344

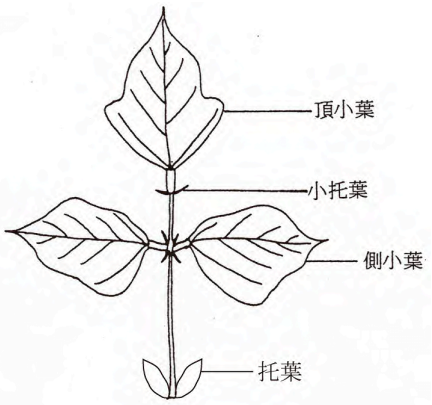
植物観察再入門
～葉について～

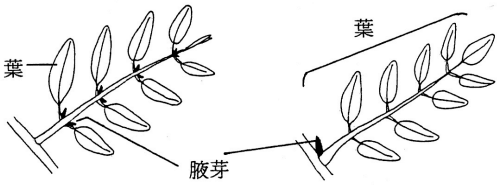
東京理科大学薬学部　和田 浩志

１．葉の基本形態

葉身、葉柄、托葉からなる。ただし、これらがすべて揃っているとは限らない。

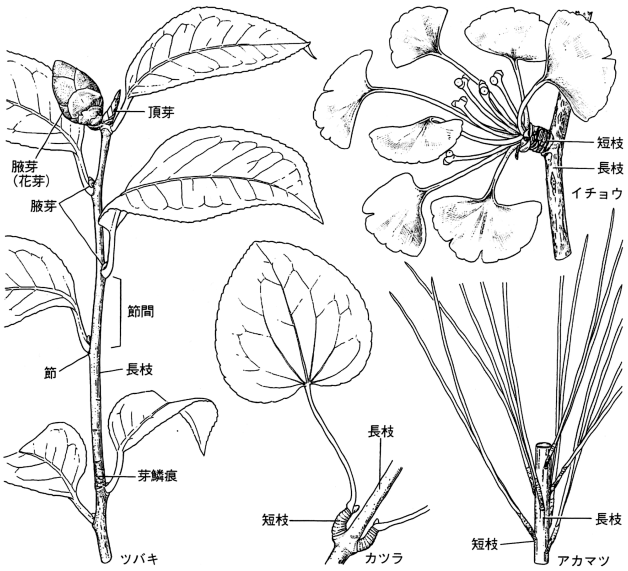






２．１枚の葉とは？

節と腋芽・枝に注目する。節から出たものが１枚の葉である。



枝　長枝と短枝

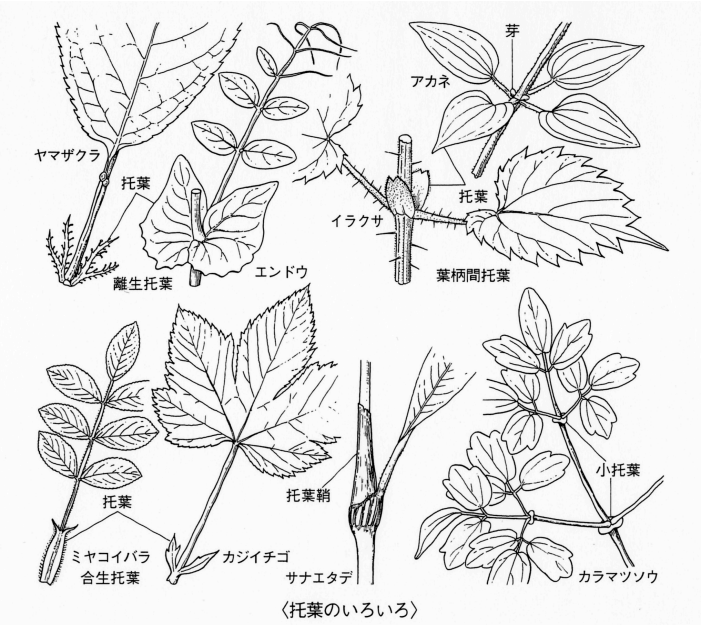
複　葉

３．托葉が目立つグループ

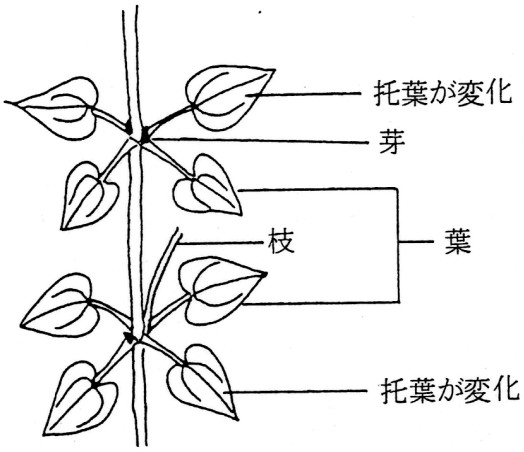
・バラ科、マメ科、アカネ科植物では托葉が目立ち、あとまで残るものが多い。

・タデ科植物では茎を包む托葉鞘が特徴となる。

・モクレン科植物では托葉のついていた跡が茎に輪状に残る。



〈托葉のいろいろ〉



4. 複葉の種類と代表例（科名は新エングラー体系による）

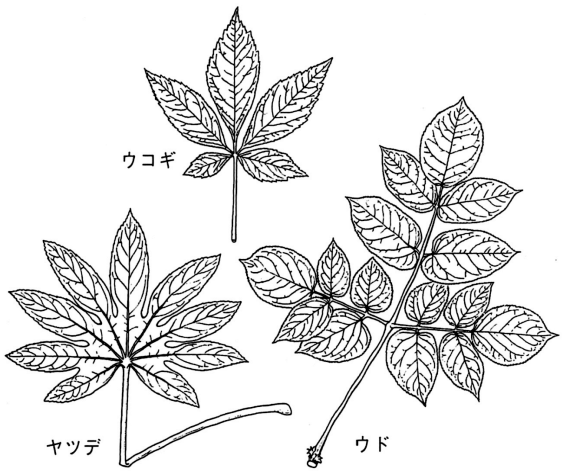
・**三出複葉**：ミツバアケビ（アケビ科）、クズ・シロツメクサ・アカツメクサ、ヤマハギなど（マメ科）、カタバミなど（カタバミ科）、ミツデカエデ・メグスリノキ（カエデ科）、ミツバウツギ（ミツバウツギ科）、タカノツメ（ウコギ科）

・**掌状複葉**：アケビ（アケビ科）、トチノキ（トチノキ科）、ヤマウコギ・ヒメウコギ・コシアブラ・チョウセンニンジンなど（ウコギ科）

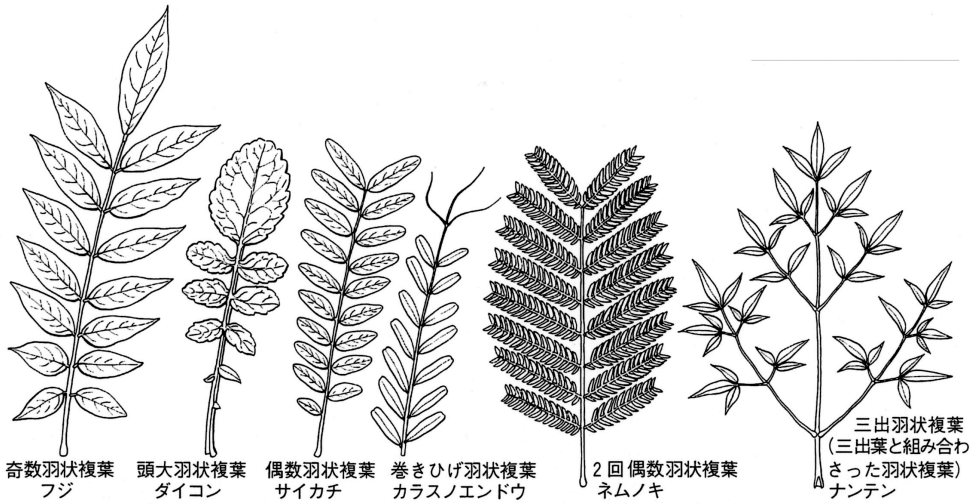
・**羽状複葉**：オニグルミ・サワグルミなど（クルミ科）、ナンテンなど（メギ科）、ノイバラ・ハマナス・ワレモコウなど（バラ科）、フジ・サイカチ・ネムノキ・エンドウなど（マメ科）、ヌルデ・ヤマウルシ・ヤマハゼ・ツタウルシなど（ウルシ科）、サンショウ・キハダなど（ミカン科）、ニガキ・ニワウルシ（ニガキ科）、タラノキ・ウドなど（ウコギ科）、トウキ・センキュウ・ウイキョウなど（セリ科）

・**鳥足状複葉**：ヤブガラシ（ブドウ科）、アマチャヅル（ウリ科）、マムシグサ・ウラシマソウなど（サトイモ科）

三出複葉と掌状複葉



ウコギ科の単葉と複葉



5. 観察のポイント

・１枚の葉はどれか、ということに注目する。

・１枚の葉だけでなく、枝に対してどのようについているか（葉序）にも注目する。

・葉のにおいにも注目する。

・托葉がついていた跡、葉痕にも注目する。

・葉柄は葉身をただ支えているだけではない。

・皮膚炎を起こす植物に注意する（例）ウルシ科、キンポウゲ科、トウダイグサ科、セリ科など

【引用図書】

・和田浩志,「理科の教育」(基礎教養講座 −教師のためのやさしい体験的植物学−), **40**, 52(1991).

・『図説植物用語辞典』, 清水建美著（八坂書房）, 2008年

・『薬用植物学』, 西岡五夫編著（廣川書店）, 2006年

［講師略歴］

和田　浩志（わだ　ひろし）

学歴：1978（昭和53）年３月　東京理科大学薬学部薬学科卒業

1980（昭和55）年３月　東京理科大学大学院薬学研究科修士課程修了

職歴：1980（昭和55）年４月　津村順天堂［現（株）ツムラ］入社,

津村研究所生薬研究部資源開発課勤務

1983（昭和58）年４月　東京理科大学薬学部製薬学科　助手

1998（平成10）年４月　獨協大学　非常勤講師（兼職）2006年3月まで

2006（平成18）年４月　東京理科大学薬学部薬学科　講師

2016（平成28）年４月　東京理科大学薬学部薬学科　准教授　現在に至る

資格：1978（昭和53）年10月　薬剤師免許取得

1988（昭和63）年11月　学位（薬学博士）取得

専門分野：資源植物化学

［現在の主なテーマ］

・「薬用植物の栽培に関する研究」

・「抗炎症作用を有する植物成分の開発」

・「民間薬及び薬用植物の有用性に関する研究」